

東京電力福島第一原子力発電所廃炉対策推進会議
汚染水処理対策委員会（第17回）

議事概要

日時：平成27年12月11日（金）14:30～16:30

場所：経済産業省 別館3階 312共用会議室

出席者：

○汚染水処理対策委員会

委員長：大西 有三	関西大学 特任教授、京都大学 名誉教授
委員員：出光 一哉	九州大学大学院 教授
西垣 誠	岡山大学大学院 教授
米田 稔	京都大学大学院 教授
山本 一良	名古屋大学 参与・名誉教授、名古屋学芸大学 教授
大迫 政浩	国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター長
藤田 光一	国土交通省国土技術政策総合研究所 研究総務官
丸井 敦尚	国立研究開発法人産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 総括研究主幹
山本 徳洋	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）核燃料サイクル工学研究所 所長
小林 正彦	（株）東芝 原子力事業部 技監
石渡 雅幸	日立GEニュークリア・エナジー（株） シニアプロジェクトマネージャ
鎌田 博文	（一社）日本建設業連合会 電力対策特別委員会 委員
増田 尚宏	東京電力（株） 福島第一廃炉推進カンパニー プレジデント
松本 純	東京電力（株） 福島第一廃炉推進カンパニー バイスプレジデント
田中 繁広	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム事務局長補佐
平井 裕秀	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム事務局長補佐
尾澤 卓思	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム事務局長補佐
規制当局：山田 知穂	原子力規制庁 審議官
オブザーバー：岡村 直子	文部科学省研究開発局 原子力課長
小俣 篤	国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課長
宮武 晃司	環境省中間貯蔵施設チーム チーム次長
高坂 潔	福島県 原子力専門員
今津 雅紀	原子力損害賠償・廃炉等支援機構 技術グループ審議役
及川 清志	技術研究組合国際廃炉研究開発機構 理事

議題：

- （1）福島第一原子力発電所の最近の状況
- （2）汚染水処理対策の進捗状況・リスクマップ
- （3）サブドレン稼働に伴う建屋流入量の抑制効果の評価方法
- （4）各タスクフォースの検討状況
 - ・陸側遮水壁タスクフォース
 - ・トリチウム水タスクフォース
- （5）汚染水処理対策技術検証事業

議 事：

<冒頭着座風景カメラ撮り>

- 福島第一原発における最近の状況、汚染水対策の進捗に伴うリスク低減状況、サブドレン稼働に伴う建屋流入量の抑制効果の評価方法、各タスクフォースの進捗等の報告・議論が行われた。

概要は以下のとおり。

○資料1「福島第一原子力発電所の最近の状況」について東京電力より説明。委員等からの主なコメントは以下のとおり。

- ・地下水ドレンのくみ上げ量を減らすためや、海側遮水壁の健全性のためにも、陸側遮水壁を早期に閉合させ、地下水位を下げるのが重要。
- ・海側遮水壁の設計について確認したい。
→次回お示しする。
- ・水収支、マスバランスについて確認したい。
→次回お示しする。
- ・「タンク建設状況」のグラフは、実態と想定を分けて記載すべき。
→指摘を踏まえて修正する。

○資料2「汚染水対策の進捗状況及びリスクマップ」について東京電力より説明。委員等からの主なコメントは以下のとおり。

- ・トレンチの充填、汚染水の浄化、タンクのリプレース等により、大きなリスクは取り除かれてきたが、今後は、既に稼働しているサブドレンなどのシステムを安定的に運用していくことに関するリスクなども適切に低減していけるよう検討すべき。
- ・建屋周辺のフェーシングがなかなか完了しない理由は何か。
→線量が高く、作業員被ばくの低減措置を講じながら進めているため。

○資料3「サブドレン稼働に伴う建屋流入量の抑制効果の評価方法について」について事務局より説明。委員等からの主なコメントは以下のとおり。

- ・今後、様々な分析が行えるよう、水質や水温のデータも今の内から取っておくべき。
- ・建屋の屋根から直接流入する雨水の量についての評価を行うべき。

○資料4「各タスクフォースの検討状況」について事務局より説明。委員等からの主なコメントは以下のとおり。

- ・建屋滞留水の処理については、廃炉の方法にもよると思うが、どのように考えているのか。
→まずは建屋の水位を下げていくことが基本と考えているが、作業の中で得られた知見等も踏まえながら、必要に応じて計画の見直しを行っていく。

○資料5「汚染水対策技術検証事業」に係る補助事業成果の福島第一原子力発電所への適用性について」について東京電力より説明があり、その後、参考資料「汚染水処理対策技術検証事業」に係る補助事業者の成果報告」について事務局より説明。

○その他、以下の発言があった。

- ・今回は報告事項が中心だったが、汚染水処理対策委員会の目標、役割、議論すべき内容について検討すべき。

<閉会>